

南無阿弥陀仏は
私のいのち



平成 29年
8月号

NO.
475

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263

(撮影 国分尚三氏)

の せいでく あわ の 清濁併せ呑む

我が家の娘が今年で三歳になる。いろんなことに興味を持ち、親としては目が離せなくなってきた。最近私の口癖になっっているのは「危ないからやめなさい」である。子供に善悪を教えるということも親の役目であるが、娘の視野を狭くしたくないという思いもあり、複雑な気持ちになる。特に最近ではニュースなどを見てみると、善悪をはっきりと

白黒つけなければならぬ風潮にあるのではないだろうか。

そんな中、先日のお盆のお参り先で「清濁併せ呑む」という言葉を教わった。大海は清流も濁流も区別することなく迎え入れることから、正と邪、善と悪を分け隔て無く受け入れるという意味であろう。

私たちは善と悪を分けるときに悪を排除しようとする。そこに現れるのは社会的悪である争いなのだ。念仏の教えでは分けるといふことがそもそも悪なのである。

お浄土は賜るはたらきであると教わる。私という存在は背景に歴史を持ち、様々な人との繋がりによって成り立っている。実はその背景は清濁を併せ呑んでいるのである。

魚が海を拒否すれば生きていけないように、様々な人と共に生きている現実を否定することは、私のいのちを否定することになるのである。この矛盾に苦しみ悩みがあるのである。実は肝心の聞き所は、分別する私の心根によると思わされた。

(仲井 真裕 記)

評議員会総会報告

去る6月18日(日)、西徳寺本堂におきまして午後3時より「平成29年度西徳寺評議員会総会」が開催されました。来賓として総代会から青柳庄一様・土肥一夫様・北島勇様・小田周太朗様の4名をお招きし、評議員25名出席のもと行われました。

まず挨拶として竹内乾一郎会長から、評議員の増員やブロック間法会の活性化が願われ、脇阪住職からは「西徳寺保全工事」の完成と、7月30日に予定されている「落成慶讃法要」のご案内があり、来賓として総代会より小田周太朗様からは、西徳寺の護持発展のために評議員会の協力を求められました。

総会は竹内会長が議長を務め、すべての議案が承認されました。青柳庄一責任役員からは平成28年度西徳寺会計決算報告があり、皆様にご理解をいただきました。今年度から新役員として今村孝一様が就任され、新しく野木賢一様が新会員となりました。

総会終了後、西徳寺会館2階「梅檀の間」で懇親会を開き、加藤廣副会長の名司会のもと、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。

(木村 専正 記)



仏教青年会旅行

7月2日(日)～3日(月)、参加者10名で仏教青年会旅行を開催しました。今回は会員の意見から、神奈川県三浦半島にある荒井浜海岸へ海を楽しむ旅行へ行ってきました。

梅雨時の中、天気にも恵まれ、きれいな海で泳いだり、釣りをしたり、浜辺で語り合ったりと、皆さん童心に返り楽しんでいました。夜は新鮮なシーフードバーベキューをいただきながら、懇親を深めることができました。

翌日には日露戦争で東郷平八郎司令長官が乗艦した「戦艦三笠」を見学しました。戦争という今の私の背景になっている歴史を、展示品や映像から深く考えさせられました。

来年も会員さんからの意見をいただき、楽しめる旅行をしたいです。

(仲井 真裕 記)



親鸞さんのことば

爾れば、凡小修し易き真教、
愚鈍往き易き捷徑なり。
大聖一代の教、
是の徳海に如くは無し。

『教行信証』総序
松井憲一

親鸞聖人は、南無阿弥陀仏の名号もその名号に感動する信心も、ともに阿弥陀仏の願いが至りとどいたものだといわれました（六月号参照）。それを受けて、「爾れば、凡小修し易き真教、愚鈍往き易き捷徑なり。大聖一代の教、是の徳海に如くは無し。」だから、本願の教えは凡夫が修し易いまことの教えであり、愚鈍なものも往き易い近道である。大聖者お釈迦さまがその生涯を通して説かれた教えの中で、このように広くて深い功德にまさるものはない」といわれます。

田んぼに水を引くのに瀬木をすする。すると、流れてきたキュウリや茄子がよく引つかかる。それを見た浅田正作さんは、「自力無効」というタイトルで、「せぎの下で・浮いたり・沈んだり・キリキリ舞っている・茄子の実よ・お前も・自分の力で・そこを離れられないのか」と詩っています。わたしたちの聞法は、聞法したら、助かると思っ

て懸命になっていますが、その発想が自分の思いである限り、聞法という壁を作って、浮いたり沈んだりしてキリキリ舞いをしてい

ただではないかと教えられます。南無阿弥陀仏のお法りが響くのは、ちよつとした出来事で浮き沈みする自分が照らされる時、「凡小」と「愚鈍」の身と頭がさがったときです。特別な修行もしたことはない「凡小」と「愚鈍」の身は、当然、修し易き教え、往き易き道に出

遇わなければ、手も足もありません。それで、阿弥陀仏の呼びかけである南無阿弥陀仏の教えを、「凡小修し易き真教、愚鈍往き易き捷徑（近道）なり」といわれるのです。「修し易き真教」とは、安易な修行の教えというわけではありません。「凡小」凡夫が考えるような修行の内容や深さには関係ないということです。修行の内容によって覚りに応じようとするれば、どれほどやさしい行でも、落ちこぼれが出来ます。落ちこぼれが出れば、逃げる人まで追わえ取ろうとする、阿弥陀仏の摂取不捨のお慈悲は届きません。それで、阿弥陀仏からの呼びかけを平等にいただける南無阿弥陀仏の教えを、「修し易き真教」といわれるのです。「往き易き捷徑なり」とは、「渋滞は他人のせいだと 思ってる」ような「愚鈍」の身のまま歩んでゆくことができる道のことです。愚かでありながら愚かさに気づかず、気づかそうとするはたらきにも鈍いわれらは、阿弥陀仏から差し向けられた南無阿弥陀仏の道し

かありません。それで、阿弥陀仏のはたらきによる道を、「往き易き捷徑なり」容易で早い近い道といわれるのです。そして、「真教」と「捷徑」の教えは、「大聖一代の教、是の徳海に如くは無し」といわれます。「大聖一代の教」とは、大いなる聖者のお釈迦さまが説かれた、多くの教えのことです。善導大師は、「門八万四千に余れり」と、教えは八万四千を超えているといわれます。ところが、親鸞聖人は「門余と言ふは、門とは即ち八万四千の仮門也。余は

則ち本願一乗海也」といわれて、八万四千の教えは方便の仮の門であって、それを超えたのが、本願一乗海の教えであるといわれます。聖人は、お釈迦さまが多くの教えを説かれたご苦勞は、本願一乗海の功德を顕かにすることであったといわれます。だから、善根を積み修行して覚ろうとする多くの教えは、「仮門」であり、その仮門への断念を待つ「凡小」「愚鈍」の身知らしめ、南無阿弥陀仏に帰せしめる教えのみが、「是の徳海に如くは無し」、この功德の世界にまさるものはないといわれるのです。



(バリ島)

山門の言葉

人生は一度きり 生まれ変わるなら 生きているうち 長瀬 剛



「今度また生まれ変わっても、また必ず一緒になりたい」、一昔前、プロポーズの時に使われたフレーズらしい。もし来世があるのなら、また再び出遇って人生を共にすることを誓うというものである。

この情緒的なフレーズとは裏腹に人生は一度きり、やり直すことも来世に託すことも許されることではない。果たして、二度とない人生において生まれ変わることは、一体どういうことなのだろうか。

仏教思想である輪廻転生とは、人間が何度も生死を繰り返しながら六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天)という苦悩の世界を^{へめぐ}経巡ることをいう。しかし、お釈迦様が説かれた真意とは、この世における人間の生き様として六道をお示しくださった。

誠実に、そして謙虚に生きようと思っても、抜きがたくして自分の中心にあるのが自我である。いざとなれば問答無用で自分の物差しを振り回し、口では多くの方々に支えられてと殊勝なことをいながら、自分の都合で地獄や修羅場をつくり出しては他人を傷つけてはいないか。

生まれ変わるといことは、全くの別人になるということではない。いつも「自分が！」という思いを握りしめてきた拳^{こぶし}を広げ、個人的な喜怒哀楽に沈んでいることを問い直せと喚びかけてくださる仏の教えを中心に据える。生まれ変わることは、自己満足という執着から解放されていく生き方を賜ることである。

(木村 専正 記)

日誌

- 6月10日 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 仲井 真裕
- 6月11日 城北ブロック会総会・聞法会(川口・リリア 参加者17名)
- 6月13日 仏教青年会座談会
- 6月17日 定例聞法会、混声合唱団「エコー」練習
- 6月18日 評議員会総会(参加者29名)
- 6月21日 婦人会聞法会
- 6月24日 混声合唱団「エコー」練習
- 6月25日 城東ブロック会総会・聞法会(人形町・香港美食園 参加者28名)
- 6月27日・28日 宗祖忌
- 6月28日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師
- 7月1日 混声合唱団「エコー」練習
- 7月2日~3日 仏教青年会研修旅行(三浦半島方面 参加者10名)
- 7月4日 責任役員会・総代会
- 7月5日 東京教区総会(新横浜グレイスホテル) 住職・大谷参加
- 7月7日・8日 中興忌
- 7月8日 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 大谷 顧問

第334号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

～法語カレンダーに聞く～ (2017年6月)

「弥陀の回向成就して 往相還相ふたつなり」

人々の間で古くから流行し、さまざまな場面で決断の後押しをしてきたのが占いであろう。数ある占いの中でも、最も平易な占いの一つが手相である。手相とは、手の形や線などの外見的特徴によって、その人の性格や未来を占う観相学の一種である。「姿」が外見を意味するのに対し、「相」は人の内面を表す言葉である。

朝起きたとき、外出するとき、就寝前、私たちは幾度となく鏡の前に立ち、自分の姿を確認している。私たちは少しでも若く見られたい、健康に見られたい、生活が充実しているように見られたいなど、常に周りからどう見られているか、そればかりを気にしていないだろうか。自己中心的な生き方である。

「経教はこれを喩うるに鏡の如し」とは善導大師のお言葉である。仏の教えとは私自身の内なる相を映し出すはたらきだと教えられる。自分に与えられたいのちの尊さに気づけない、眼前の現実を是非善悪の眼で判断し、ありのままに受け取ることができない。そのどこまでも愚かな相に真向かわせ、私たちにははかりしることのできない希有ないのちを、今生きていることを教えてくださるのが、阿弥陀仏の回向(はたらき)ではないだろうか。(蓮井 邦宗)

次回聞法会のご案内

日時 平成29年9月13日(水) 午後1時～3時 (※8月の婦人会はお休みです)

場所 西徳寺 星月の間

法話 法語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)

「願力無窮にましませば 罪業深重おもからず」

最高顧問 大谷 義博

蓮井 邦宗

ひとこと

庭の紫陽花を四年前に伐採、根元から切ってしまいましたら、花が咲かなくなり、植木屋さんに相談しました。「そのままにしておくように」と指導されました。

昨年四つの花が咲き、「咲いてくれて有りがとう」と感謝の気持ちを花に声がけしてきました。今年は三十もの花が咲き、娘共々大喜び。「有りがとう」の連発です。

花や木にも心は通じるものと聞いておりましたので、その通りになったようです。

(辻 佐和子)

掲示板

平成29年8月

5日(土) 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
13日～16日 孟蘭盆会
19日(土) 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
27日(日) 午後5時 仏教青年会主催バーベキュー大会

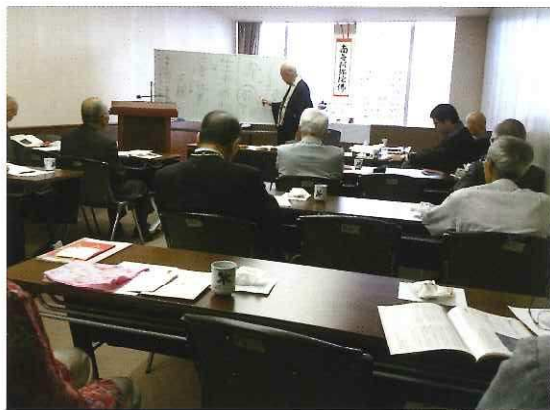
城北ブロック会・聞法会だより

去る6月11日(日)、川口市・「文化センターリリア」におきまして、17名のご参加をいただき、総会・聞法会を行いました。総会では議案について審議いただき、今年度から新たに5名の方に役員になっていただきました。

法話では大谷顧問から、「仏教を学ぶのは難しいが、出遇うことが大事である。思い通りにならない私の人生だけれども、実は先立っていかれた方々から願いがかけられており、私たちを支え生かしてくださっている。その願いが私のいのちなのだ」と話されていました。

質疑や懇親会では会員の皆様が、先立たれた身近な人からいただいた徳をいただき直すように、思い出を語っておられました。これからも会員の皆様の声に耳を傾けながら、聞法会を開いてまいります。

次回**11月19日(日)**は**新しい会場、「くいもの屋わん池袋西口公園前店」**におきまして聞法会を行う予定です。池袋駅からすぐの会場です。お近くの方がいらっしやいましたら初めてでも遠慮なくご参加下さい。皆様のご参加をお待ちしております。(仲井 真裕 記)




編集後記

お盆参りに伺ったなかで、米寿を迎えられたご主人と4才違いの奥さんが迎えてくださいました。結婚して60年という歳月を過ごされ、今はお互いに支え合って暮らしておられます。

これまでの人生をお尋ねしたところ「いろいろと廻り道をしてきたけれど、無駄なことはなかったと思う」と仰いました。目先のことばかりに翻弄されている私には、とても厳しい言葉として響いてきました。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

えこお志お礼

松戸市 渡邊 茂 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

城東ブロック会・聞法会だより

去る6月25日に人形町・香港美食園において、初参加の方2名を迎えて合計31名のもと、城東ブロック会総会・聞法会が開かれました。加藤廣会長からは「死を始めとした不安に対しては聞法しかない」と力強く挨拶をされ、竹内乾一郎評議員会長からは「お寺はお葬式だけじゃない、教えを聞く所だ」とお話をされました。

総会では、今まで長年にわたって副会長を務められた吉川喜章さんがご退任され、新たに今村孝一さんが副会長に就任、また、吉川さんは相談役に就任され、会の運営に携わっていただくことで承認されました。

聞法会では脇阪住職だけでなく大谷顧問からもいただき、一部の会員さんからは「こんなにたくさんのお話が聞けるのは滅多になくて嬉しい」と喜んでおられました。

次回は**10月22日(日)金町**で開催予定です。たくさんのご参加をお待ちしています。



※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com